

令和6年度 第3回甲賀市図書館協議会 会議録（決裁用）

1. 日 時：令和7年3月14日（金） 午後7時～午後8時40分

2. 場 所：甲南図書交流館 視聴覚ホール

3. 出席者：【委員】 大西 正泰 地村 千里 山崎喜代美 松本佐知子
中村ひろ子 山中 ルミ 松岡 和子
【事務局】 前田次長 伊東課長 香取館長 井口(敏)館長
井口(正)館長 篠原館長 片岡館長
【傍聴者】 なし

4. 次 第

- (1) 開会
- (2) 市民憲章の唱和
- (3) 会長あいさつ
- (4) 協議事項
 - ①令和6年度事業の中間報告について
 - ②令和7年度事業計画について
 - ③次期計画にかかるパブリックコメント結果報告及び策定について
 - (1) 甲賀市図書館サービス計画第3次計画
 - (2) 甲賀市子ども読書活動推進計画第4次計画
- (5) その他

5. 内 容

- (1) 開会
- (2) 市民憲章の唱和
教育委員会事務局 前田次長あいさつ
- (3) 会長あいさつ
 - ・タイパ（タイムパフォーマンス）重視の社会になってきていることについて、思うことをお話する。
 - コスパ（コストパフォーマンス）はよく聞くが、タイパは時間をいかに節約するかが重視される。例えば映画でいえば、1.5倍速から2倍速。小説にしても要約がインターネットなどで流され、それで観たり読んだりした気になっている。質より量を求める時代になってきた。
 - これを読書にあてはめてみるとどうか。かつて速読が流行った時代があった。フォトリーディングといって、写真を撮るようにページ毎に記憶する技のことで、ちょっと試してみたが暗記する書物は出来ても、小説は難しく、面白くもなかった。
 - 今また、耳から聞く音声配信、寝ながら聞くという読書が流行っている。ビジネス本の要約の音声配信サービスなどがその一例である。

そんな中で出会った本がある。

『よむよむかたる』という本で、著者は朝倉かすみさん。スローリーディングの良さを教えてくれる本で、この本に出会って読書会や読書について考え直すきっかけになった。内容はこうである。

『坂の途中で本を読む会』という、最高齢92歳、平均年齢80歳という超高齢者たちの読書サークルが舞台。メンバーが課題本をひとり2ページずつ家で読んで、読書会当日に朗読した後、皆で感想を述べ合うというもの。

こんなペースだから、一冊読み終えるのに数か月かかるというような読書会である。しかしながら、朗読した人を皆でねぎらい褒め合い、その後に感想を述べ合う様子は実に楽しそう。少しボケたような会話で皆が笑い合い、「また来月ね」と別れる。それだけの集まりだが、課題本である佐藤さとるの『だれも知らない小さな国』という児童文学一冊を、一年かけて読むという老人たちの読み込みは深い。

もちろんこれは小説で、実際にこのような読書会があるかどうかはわからないが、本を豊かにゆっくり読むということは、タイパの時代だけに貴重である。

図書館という空間は、じっくり本を読む人たちのためにも重要な存在であると、改めて感じた次第である。では本日もよろしくお願いします。

(4) 協議事項

①令和6年度事業の中間報告について

[事務局から説明]

(図書館事業進捗のほか、12月に実施した貴生川駅周辺社会実験の状況等を説明)

委員：貴生川駅社会実験は、何人くらいの利用があったか。

事務局：トレーラーハウス内にコミックエッセイを常設し、付近にアンケート用紙も置いていたが、図書館入り口にあるようなカウンターはなかったので正確な数値は把握出来ない。回収したアンケートもそれほど多くなかった。

しかし、何度か現地に赴き、利用されている方の声は聞くことができた。

委員：本は読みたいが字に馴染めない、読むことが辛いといった声もよく聞くが、コミックエッセイはマンガから入るので、そういった点ではよかったと思う。

会長：年間購入冊数について、本の値上がりの影響をどう考えているか。

事務局：利用者の嗜好を補うという点では難しい。値上がりのために個人で買うのが困難な本を図書館が購入することでカバーするというのも役割の一つ。

丁寧な選書で、幅広い本を購入するようにしている。

会長：予算をたてる段階から資料費一括りでなく、何冊購入するかを考慮することが大事と考える。

委員：「図書費」「資料費」とあるが「資料費」とは具体的にどういったものか。

事務局：「図書費」は本、「資料費」は「図書費」に雑誌、新聞、DVD等を加えた予算のことである。

各種調査に備えて、統計上二つに分けている。

委員：雑誌の除籍はどうしているのか。保存年数はどうか。

事務局：雑誌の内容によって区別している。週刊誌のようなものは短く、子ども雑誌は捨てないといった区分をしている。

②令和7年度事業計画について

〔事務局から説明〕

(特に図書館システム更新、快適な図書館環境を目的とした修繕対応予算等を説明)

会長：小学校授業に使う学習支援パックの活用については、気になっていた。昨今のタブレット端末検索が主流になってきた情勢において大事な取り組み。やはり紙資料を繰って自分で調べて苦労して答えを探していくことが大事。学習支援パックはあまり使われていないと思うが、だから止めるという方向ではなく、図書館側からもこれを活かす工夫をされたい。

事務局：実務担当の会議で、パックの中身の見直しについて検討しているところ。

委員：市外から引っ越して来られた子育て世代の方々に図書館に来てもらえるように、例えば子育て広場のようなことが出来ればよいと考えている。甲南にはおはなしの部屋があるので活用出来たらよい。

事務局：そういう形で利用していただくことはありがたい。4か月検診で行っているブックスタートもそのひとつ。本に親しむ入り口としてぜひ相談に応じたい。

委員：ヤングアダルトサービスの充実についてだが、読み聞かせボランティアをしていて感じることは、中学校になると事業が止まる。小学校へ行く移動図書館を中学校も巡回することはできないのか。

事務局：移動図書館巡回については、これまで年数をかけて一部小学校から市内全校へと広めてきた。バス2台で5館の日程確保はこれ以上難しいのが現状。中学生以上の読書離れは全国的にも問題となっており、子どもたちのスケジュールも過密。その状況でどれだけ読書へのアプローチが出来るかが課題。いろいろな広報媒体で踏み込んでいく必要があると考えている。

委員：読み聞かせボランティアとして小学校へ行くと「中学校へも来てほしい」という児童の声があった。それで中学校と協議して、この5月か6月に一度やってみることとなった。本に興味を持ち、読書をするきっかけになればと願っている。同じように、移動図書館が中学校へ来てくれたら、本に触れる機会も増えると考え。児童数に対してどれくらいの利用があるか出せるのか。

事務局：その学校の児童数と利用者数で割り出すことは可能だが、学校行事にも影響する。また、先生など大人のアプローチによっても利用は大きく変わってくると感じている。

会長：たしかに、小学校から中学校への読書に関わる取り組みは不連続に感じる。ヤングアダルト部門はあるが、もっと図書館へ導く工夫が必要である。

委員：朝の10分、15分という短い時間だが、積み重なればけっこうな冊数になる。甲南中学校では保育学習の中で、どんな本を子どもたちに与えたらよい

のかという学習を２年間続けさせてもらっている。生徒同士でも読み聞かせをしている。この機会を次のステップにつなげていっているようである。

会 長：詩を加えるのもよいと思う。

委 員：その学習には学校司書も関わるのか。

委 員：司書の方が本を集めて、その中から生徒が読み聞かせる本を選んでいるようである。

③次期計画にかかるパブリックコメント結果報告及び策定について

(1) 甲賀市図書館サービス計画第３次計画

[事務局から説明]

会 長：１名から４項目の意見がありしっかり読み込んでコメントいただいている。意見の中で、図書の購入にあたり「図書館職員以外の市民を購入選定委員として選定してはどうか」とあるが実際に事例があるのか。

事務局：把握はしていないが県内では事例がないと思う。

委 員：カテゴリーの偏在化を調べる方法は図書館にあると思うので、把握しながらしっかり選書されていたらよいと考える。

(2) 甲賀市子ども読書活動推進計画第４次計画

[事務局から説明]

委 員：学校司書の目標人数について、実際の人数が示されていないが、児童生徒の減少などで今後の動向が見通せず難しいのか。学校司書も正規ではないので確保が難しいのか。

事務局：計画は学校教育課、子育て政策課等と共に作り図書館でまとめている。

この部分はそうした担当課からの数値となっている。

また、今甲賀市が出来る現実的な数値を指標としたものである。図書費についても国の基準を満たすためにはより高額の確保が必要。学校司書の人材確保にも多額の予算が必要。

会 長：国は、そういった現状まで考えが及んでなく、今はＩＣＴに注力している。そんな中で、市としての方向性を数値的に示すのは難しいと考える。

しかしながら委員のご意見はそのとおりなので、市としても何とか前に進めてほしい。

(5) その他

[会長より、今期最後の協議会であることから、振り返っての感想などをざくばらんに話すことを提案いただく]

委 員：図書館から提示される資料がすごい。また委員の指摘も素晴らしく感心した。

委 員：協議会委員の選出団体であるボランティア団体で、震災を語り継ぐ朗読会を実施した。多くの参加があり委員の方々も来ていただいた。続けていきたい。

委 員：せっかく会議に参加しているのだから、しっかり発言しようと思ってきた。いろいろと勉強になった。

委員：中学生の読書離れは気になっている。今の時代は恵まれすぎて有難みが薄れているのかもしれない。本を読むひとつのきっかけとして、家族が読んでいるという環境も大事と思う。自分も家族につられて読んでいたりする。

委員：本が好きで図書館によく通っている。図書館職員の影の働きに感謝する。家庭で大人が本の楽しさを示せば、子どもたちに伝わっている。大人のおはなし会などがよいきっかけになると考える。

会長：「図書館友の会」を立ち上げたい。

皆さんに配ってもらったチラシのとおりで、まずは準備室としている。

現在10名近い参加応募がある。委員の皆さんもぜひ参加してほしい。

今後は月に1回ペースで集い、自由な話し合いのなかで一つの形が出来たら「友の会」へと進めていきたいと考えている。

市民との協働で、図書館をより良い場所にしていきたいと考えている。

(6) 閉会

副会長あいさつ

・昨年11月に逝去された谷川俊太郎さんのコレクションに纏わるお話しをする。

20年ほど前に勤務する京都工芸繊維大学で谷川さんを招いたシンポジウムがあった。その時、谷川さんは「自分は工業デザイナーになりたかった。そのために古いラジオをコレクションしていた」と話されていた。それがご縁で、工芸繊維大学の学生たちが学ぶための資料にちょうどよいからと、190台の古いラジオを寄贈いただいた。大学図書館に展示しており、そのことを知ったファンや一般の方々が大学を訪れている。

そこで思ったのは、本以外でも何かシンボリックなものがあれば、図書館に来てもらえるということである。

なお、ラジオは今も展示しているので、興味のある方はぜひお越しいただきたい。